

日本山岳遺産基金通信



日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

2023年度、日本山岳遺産基金の活動は14年目になりました。これもひとえに、日頃より多大なお力添えをくださるみなさまのおかげです。この場をお借りして御礼申し上げます。新型コロナウイルスとの関わり方が変化の中で、日本山岳遺産基金のイベントはコロナ前の規模で開催いたします。今年度は日本山岳遺産サミットを実施するべく、準備を進めております。これからも当基金の活動へのご支援を宜しく願い申し上げます。

新たに4地域／団体を日本山岳遺産に認定

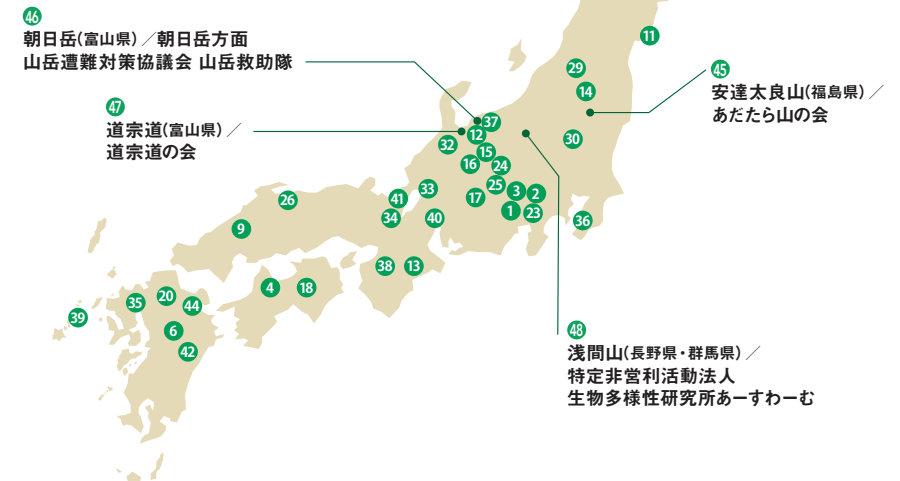
当基金の活動をより多くの方に知っていただくため、今年度は、例年の活動に加え、より広報活動に注力してまいりました。その取り組みのひとつとして、屋外で開催されるイベントに出向き、ご寄付のお願いを通して活動のご案内をいたしました。とりわけ山中湖のイベントでは、子どもたちがブースに立ち寄る場面が多くみられました。今後も若い世代にもわかりやすく活動の共有ができるよう、さらなる工夫とともに、美しい日本の山岳環境を次の世代に残すための活動を増やしてまいります。

さて、今年度の日本山岳遺産認定地／団体の選定が10月に行われ、本年度は4地域／団体を日本山岳遺産認定地／団体として決定いたしました。各認定団体の活動拠点となる山岳エリアのご紹介に加え、活動内容につきましては、次ページ以降をご覧ください。また、年明けに開催予定の日本山岳遺産サミットは、より詳細な活動報告を伺う機会となりますので、ぜひ当基金のウェブサイトや山と溪谷社の雑誌媒体などを通して開催スケジュールをご確認ください。

2023年度日本山岳遺産とこれまでの認定地

- ① 櫛形山(山梨県)／櫛形山ネットワーク
- ② 小金沢シオジの森(山梨県)／シオジ森の学校
- ③ 乙女高原(山梨県)／乙女高原ファンクラブ
- ④ 石鎚山(愛媛県)／久万高原町
- ⑤ 早池峰山(岩手県)／早池峰にゴミは似合わない実行委員会
- ⑥ 九州中央山地五家荘エリア(熊本県)
／泉・五家荘登山道整備プロジェクト
- ⑦ 夕張岳(北海道)／ユウバリコザクラの会
- ⑧ 七時雨山(岩手県)／七時雨ロマンの会
- ⑨ 臥龍山(広島県)／芸北自然保護レジャー
- ⑩ アボイ岳(北海道)／アボイ岳ファンクラブ
- ⑪ 金華山(宮城県)／特定非営利活動法人FIRST ASCENT JAPAN.
- ⑫ 船窪岳(長野県・富山県)／船窪小屋・道しるべの会
- ⑬ 大ヶヶ原大杉谷(三重県)／公益社団法人大杉谷登山センター
- ⑭ 吾妻山(福島県)／吾妻山自然倶楽部
- ⑮ 嶽ノ峰(長野県)／長野県大町岳陽高等学校山岳部
- ⑯ 徳本峠(長野県)／古道・徳本峠を守る人々
- ⑰ 南木曾岳(長野県)／南木曾山士会
- ⑱ 三嶺(高知県・徳島県)／三嶺の森をまわるみんなの会
- ⑲ 美球富士(北海道)／山のトイレを考える会
- ⑳ 嘉穂アルプス(福岡県)／嘉穂三山愛会
- ㉑ ニツ森(秋田県)／一般社団法人白神コミュニケーションズ
- ㉒ 岩手山(岩手県)／岩手山地区パークボランティア連絡協議会
- ㉓ 三ツ峠(山梨県)／三ツ峠ネットワーク
- ㉔ 霧ヶ峰(長野県)／霧ヶ峰草原再生協議会
- ㉕ 入笠山(長野県)／入笠ボランティア協会
- ㉖ 伯耆大山(鳥取県)／グラウンドワーク大山蒜山
- ㉗ 大雪山・黒岳(北海道)／一般社団法人大雪山・山守隊
- ㉘ トムラウシ山(北海道)／新得山岳会
- ㉙ 飯豊山(山形県・新潟県・福島県)
／特定非営利活動法人飯豊朝日を愛する会
- ㉚ 鹿沼市・岩山(栃木県)／機動パトロール隊
- ㉛ 高田大岳(青森県)／十和田山岳振興協議会
- ㉜ 大笠山(富山県)／五箇山自然文化研究会
- ㉝ 伊吹山(滋賀県・岐阜県)／伊吹山を守る自然再生協議会
- ㉞ 比叡山・比良山地(滋賀県・京都府)／比良比叡トレイル協議会

- ㉟ 脊振山系(福岡県・佐賀県)／脊振の自然を愛する会
- ㊱ 鋸山(千葉県)／金谷ストーンコミュニティー
- ㊲ 信越トレイル(長野県・新潟県)
／特定非営利活動法人信越トレイルクラブ
- ㊳ 金剛山(大阪府・奈良県)／金剛錬成会
- ㊴ 山王山(長崎県)／新上五島町荒川郷
- ㊵ 竜ヶ岳(三重県)
／竜ヶ岳自然環境保全推進委員会、竜ヶ岳登山道整備の会
- ㊶ 京都北山・芦生の森(京都府)
／一般社団法人 芦生もりびと協会
- ㊷ 鈴岳(宮城県)／フォレスト・マントル上鹿川
- ㊸ 大雪山・旭岳(北海道)／東川町大雪山国立公園保護協会
- ㊹ 鹿鳴越連山(大分県)／一般社団法人ひじ町ツーリズム協会
- ①～⑳は2022年度までに認定の日本山岳遺産



2023年度 日本山岳遺産認定地・認定団体の紹介

新たに認定した4つの日本山岳遺産、それぞれの認定地の概要と認定団体の活動内容を紹介します。

福島県 安達太良山 認定団体 あだたら山の会

山の概要 安達太良山は日本百名山の一つに数えられている1728mの山で、多くの登山客に愛されている。福島県二本松市、安達郡大玉村、郡山市と耶麻郡猪苗代町の境に位置する。コースは多数ありそれぞれに個性がある。ロープウェイを利用すると約1時間半ほどで山頂に到着するため、登山初心者や家族連れでも気軽にトレッキングを楽しめるのが魅力。岳温泉神社付近のコナラ林に代表される、大径木のコナラで成り立つコナラ群落は、中間温帯の気候の極相として、学術的にも貴重。紅葉の名所としても知られており、毎年9月下旬から10月は多くの人でにぎわう。

認定団体の概要 山岳愛好者が相互の親睦と健全登山の普及、技術の研鑽を目的として、1958年10月に設立された65年以上の歴史がある会員数約30名の団体。福島県山岳連盟に加盟しており、四季を通じて安達太良山系や県内の山岳を中心に活動。日本アル

プス等の県外山行にも積極的に取り組んでいる。安達太良山での橋の設置や撤去などの登山道整備、冬季にはパトロールも行っている。活動の様子はHPの月刊の会報に詳細に書いてあり、活発に活動を行っている団体であることがわかる。

認定理由 日本百名山、花の百名山どちらにも選定されており、爆裂火口を中心とする優れた景観と多種多様な高山植物が自生する安達太良山。多くの人が訪れるため、登山道整備をすることでオーバーユースからの荒廃を防ぎ、長期にわたり健全な登山道を維持しようとしているところを評価。



奥岳登山道の刈払いを行い、登山道が明瞭になった

富山県 朝日岳 認定団体 朝日岳方面山岳遭難対策協議会 山岳救助隊

山の概要 中部山岳国立公園内の北アルプス最北部に位置する朝日岳は、富山県朝日町と新潟県糸魚川市との県境にある標高2418mの山。西は富山県の北又からイブリ尾根を通り、また東は新潟県の蓮華温泉から白高地を経て至る。南は雪倉岳や鉢ヶ岳を越えて白馬岳に稜線で繋がり、そして北側は拇海新道によって日本海・親不知と結ばれている。この山域は、冬の間の多量の降雪により、夏でも多くの残雪があり、多種多様な高山植物が豊富にあることから、国により特別天然記念物「白馬連山高山植物帯」に指定されている。

認定団体の概要 1965年12月設立。設立以前には、山小屋や山岳関係者らによって遭難救助が行われてきた。しかし同年に遭難事故が相次ぎ、それを受けて迅速に対応できる山岳救助隊として朝日町や山岳関係者により結成された団体。朝日岳の開山期間中

の夏を中心に活動しており、富山県警山岳警備隊や山岳団体等の指導や協力を得ながら、年間を通じて救助訓練やパトロールを実施している。また、同エリアでは、高齢化によって登山道整備を行う人材が減っている課題もあり、従来の活動に加えて、山岳環境保全や登山道整備の必要性も高まっている。

認定理由 朝日岳という山岳救助活動をするには大変なエリアで、パトロールを行いながら登山道の修復、整備をしていることを評価。高齢化や人手不足などの課題を抱えているが今後の継続的な活動に向けても期待される。



事前パトロールにて雪解け後の登山道で倒木処理をする

山岳遺産基金
認定地TOPICS

入笠ボランティア協会が創立20周年記念式典を実施

2017年度の日本山岳遺産認定団体で、今年活動20年目を迎えた入笠ボランティア協会の創立20周年記念式典が、2023年9月9日(土)に富士見パノラマリゾート(長野県富士見町)内の山頂レストラン「スピカ」にて開催された。各地から入笠湿原に集まった会員らは、朝9時過ぎからスキの穂刈りや枯草除去などの全体活動で汗を流したのち、午後から開かれる式典に参加。

冒頭、同会会長の沢崎立雄氏による開会挨拶では、1980年代の入笠湿原の風景と2023年の状況を比べた写真が披露され、会の歴史とこれまでの活動を振り返るとともに、この先さらに10年、20年と活動を継続していくことの重要性を訴えた。続いて来賓の名取重治富士見町長や、富士見パノラマリゾートの雨宮和彦常務理事らが祝辞を寄せ、式典第二部では、会員による二胡の楽器演奏や、入笠山にまつわるクイズに参加者全員で挑戦するなど和やかな雰囲気、会の創立20周年を祝った。そして、同会副会長の梅田克己氏の発声にあわせて会員全員が「頑張ろう!」とこぶしを挙げ、今後の活動への決意を新たにした。

富山県 道宗道 認定団体 道宗道の会

山の概要 道宗道は約500年前の越中五箇山に浄土真宗の教えを広めた赤尾の道宗が月に一度、井波の瑞泉寺に詣でるために歩いたとされる標高1000m前後の尾根筋の山道。近辺には山城跡や牛方石畳の道、合掌造りの集落などがある。さらに北アルプスの山並みや、砺波平野に広がるこの地域特有の散居村風景を楽しむことができる。一帯にはユキツバキ、オオカメノキ、マルバマンサク、ヒメアオキをはじめジャクナゲ、ユキワリソウ、ミズバシヨウ、カタクリなどの群生が見られる。また禁伐となっているエリアではブナ、ミズナラを主とした原生林がある。

認定団体の概要 2010年4月設立。長い時の流れの中で歴史ある道宗道は雑木に埋もれてしまっていたが、これを復興させようと2010年に有志が集まり道宗道の会を結成し、荒れ果てた登山道の伐開や階段、案内標柱等を設置して古道「道宗道」を復活させ

た。以降、登山者が安全に山歩きを楽しめるよう、周辺の山道の保全・管理を行うとともに、道宗道を活用した自然教室、トレイルラン大会への協力などを行い、活気ある地域づくりの実現に向けて活動をしている。

認定理由 歴史ある古道でもある登山道を復元させ、継続的に維持管理活動をボランティアで行ってきた。必要経費も会員の会費、イベント参加費で賄っている点は高く評価できる。古来から伝わる歴史や価値観を見直すことに意義がある。



道宗道展望エリア除草作業実施の様子

長野県 群馬県 浅間山 認定団体 特定非営利活動法人 生物多様性研究所あーすわーむ

山の概要 浅間山は長野県と群馬県の県境にある標高2568mの活火山。現在も活発な火山活動がみられ、古来より山岳信仰の対象にもされてきた。火山地形や自然が楽しめる登山コースも数多く整備されている。山域の多くは上信越高原国立公園に指定され、ミズナラなどの自然林やカラマツの天然林のほか、一部には高山帯、亜高山帯の植物群落が見られる。また、国指定浅間山鳥獣保護区にも含まれており、特別天然記念物のニホンカモシカ、天然記念物のヤマネ、絶滅危惧種のイヌワシなど数多くの野生動物が生息する良好な自然環境が維持されている。

認定団体の概要 2010年1月設立。生態系および生物多様性の保全（野生動植物の包括的な保護管理）、人と野生動植物とのよりよい共存を通じた持続可能な社会づくりに貢献することを目指している。具体的には、生態学・動物行動学・獣医学・野生動物保護管理学などの専門家の立場から、外来種の対策、野生動物や希

少種の調査、草原の維持活動など生物多様性保全に関するさまざまな活動を行っている。また、地域の住民・教育機関・自治体などに、普及啓発と問題解決にかかわる事業を行い、社会教育・まちづくり・子どもの健全育成を推進している。

認定理由 全国的に解決急務となっているシカ問題の調査・対策を各所と協力しながら行っていることに加え、普及啓発や環境教育にも力を入れている点を評価。今後の継続活動によってよりよい対策を見出すことも期待される。



雪解け後に防鹿柵のネットを再設置している様子

2022年度認定団体 活動報告

2022年度に日本山岳遺産地に認定された山域／団体から、今年度の活動報告をいただきました。

■ 北海道（大雪山・旭岳） 認定団体 東川町大雪山国立公園保護協会

地元中学生による大雪山愛護少年団事業では、6月は天人峡温泉、7月は旭岳で美化清掃活動を実施。10月は登山道に関する勉強会などを地元自然ガイドを講師に招聘して開催しました。そのほか、8月は日本山岳遺産認定を記念して、ヒグマやカラスとの共生をテーマにした大雪山・旭岳の自然を考えるワークショップを開催。満員御礼で実施することが出来ました。この冬季にはスノーシュー&事故防止のイベントも予定していて、チラシを制作。四季を通じた情報発信と共に、自然環境保全活動や利用者の安全対策に官民協働で取り組んでいます。

■ 大分県（鹿鳴越連山） 認定団体 一般社団法人ひじ町ツーリズム協会

助成金を活用して、整備に必要な備品などを購入して登山道整備を実施しています。また、鹿鳴越連山トレッキングマップの改訂版作成や、協会のホームページで活動紹介を行っています。そのほか、自然観察会「経塚山親子ふれあいミヤマキリシマ鑑賞登山」「APU学生の自然探索ツアー」「小学校の自然探検隊」を実施。参加者のお子さんからは「楽しい。また来たい」と楽しそうでした。大人の参加者からも「里山の湧水がおいしく、山が湧水を育てていることを学べてよかった」と感想をいただきました。12月にはガイド人材育成のためのワークショップを開催します。

北アルプス安全登山アピール 救助隊員ら登壇

7月8日（土）、長野、富山、岐阜県の山岳救助隊や自治体などで構成される「北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議」が「北アルプス安全登山アピール2023」を対面とオンラインで開催しました。安全登山啓発活動の一環として、例年、夏に実施しているイベントで、今年も当基金が後援しました。対面での開催は4年ぶり。熱心な登山愛好家に来場いただき、オンライン参加者と合わせて約240人へ向けて、実際の遭難事例などを挙げながら安全に登山を楽しむために気をつけなければならないことを語り、安全登山を呼びかけました。



北アルプス三県合同山岳遭難防止対策連絡会議の方々

「石井スポーツアウトドアキャンプスタイル2023 in 山中湖」マウンテンハードウェアブースにて募金活動を実施

10月7日（土）と8日（日）に山梨県・山中湖交流プラザきららで開催された「石井スポーツアウトドアキャンプスタイル2023 in 山中湖」に出展されたマウンテンスポーツブランド「マウンテンハードウェア」のブースにて、日本山岳遺産基金の募金活動を実施しました。募金活動は、マウンテンハードウェアのオリジナルフリスビーに絵付けするワークショップと連携し行ったほか、山に関わる書籍を読みながら休憩ができる「青空図書館」も出展しました。多くの方に自然環境について考えていただくきっかけになったかと思います。



2日間で合計14,963円もの募金が集まりました

「高尾山の市“野市”」に出店の「山と溪谷社 オリジナルストア」にて募金活動を実施

10月28日（土）から2日間、株式会社山と溪谷社が高尾山口駅前広場で開催された「高尾山の市“野市”」に出店、同社社員が地元のクラフトビールメーカー「高尾ビール」とコラボしたビールの売上金の一部14,500円（1本あたり50円）と募金4,813円の合計19,313円が当基金に寄付されました。そのほか、「ピンチカード」や「山で本当に危険な生物」の冊子なども配布し安全登山の呼びかけも実施。当基金の活動を、登山者のほか、地元の方や観光客など、多くの方々を知っていただくよい機会にもなりました。



ビールはフルーティで「とても美味しい！」と大好評

組織（2023年12月20日現在）

■ 正会員

株式会社山と溪谷社
株式会社インプレスホールディングス

■ 会長

川崎深雪（株式会社山と溪谷社 代表取締役会長）

■ 副会長

二宮宏文（株式会社山と溪谷社 代表取締役社長）

■ 監事

中村健一（株式会社インプレスホールディングス）

■ 事務局長

永田 恵（株式会社山と溪谷社）

■ 特別会員

公益社団法人日本山岳会
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
日本勤労者山岳連盟

■ 法人賛助会員（50首順）

味の素株式会社
株式会社アライテント
株式会社コロニアスポーツウェアジャパン
株式会社システム・クリエート
株式会社総合サービス
株式会社トラベルギャラリー
有限会社穂高岳山荘
北海道地図株式会社
株式会社モンベル

■ 個人賛助会員

1名

■ アドバイザリーボード

下野綾子（公益社団法人日本山岳会、東邦大学准教授）
田中文男（公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会顧問）
西本武志（元日本勤労者山岳連盟会長）
野口 健（アルピニスト）
山川陽一（公益社団法人日本山岳会）

2022年度収支報告

前年度繰越金…………… 13,172,095円

収入

会員費……………550,000円
協力金等……………2,104,831円
寄付金等……………1,983,893円
その他…………… 91円
収入合計…………… 4,638,815円

支出

プロモーション費……………608,025円
イベント費用……………361,587円
基金運営費……………209,480円
助成金…………… 3,600,000円
支出合計…………… 4,779,092円

収支……………▲140,277円
次年度繰越金…………… 13,031,818円



日本山岳遺産基金事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング 株式会社山と溪谷社内
<https://sangakuisan.yamakei.co.jp/> e-mail : kin_info@yamakei.co.jp

発行＝2023年12月20日